

本を選ぶ

NO.452 2023年(令和5年)1月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL=03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>470ギガトン

●図書館を離れて(第58回)



ろん・ぼわん

470ギガトン

雑誌で目にした蕎麦屋の紹介文曰く“「水回し(そば粉に水を加えて均一に混ぜる工程)をしていると、だんだん香りが立ってきて『もう水はここまでいいよ』と、そば自体がタイミングを知らせてくれるのです」、素材と真剣に対話することでおいしさが生まれる”、だそうだ。植物である蕎麦の実を挽いた粉がしゃべるわけではないものの、一昔前なら、その日の材料(この場合はそば粉)の状態を見極めて、と言っただろうが最近「会話」や「コミュニケーション」などの表現も好まれる。わかりやすい一方で、いささか過剰になってきた。

その植物が“おしゃべりする”、そんな特集番組をNHKもやっている。超・進化論(1)「植物からのメッセージ ~地球を彩る驚異の世界~」だ。[\(https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLP3/blog/bl/pneAjr3gn/bp/pr42vAL2G6/\)](https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLP3/blog/bl/pneAjr3gn/bp/pr42vAL2G6/) 番組では埼玉大学の豊田正嗣教授の細胞情報研究室が、数年掛けてつきとめた植物の不思議な力についての研究結果が魅力的に紹介されている。この研究室の成果は<言葉を話さない植物は、どのように他の個体に情報を伝えるのか>あるいは<植物はどのようにして傷つけられたことを感受し、その情報を全身へ伝えるのか>など、興味深い内容だ。同

じところに植生し動かない植物が、実は様々な形で、周りに対してある物質を揮発したり、それに反応したりなどのやりとりがあることを目に見える形で実証している。また、京都大学の高林純示名誉教授のグループは、植物同士だけではなく、植物と昆虫の特別なコミュニケーションについても実証している。[\(http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/~junji/\)](http://www.ecology.kyoto-u.ac.jp/~junji/)

愛媛大学大学院農学研究科の米山香織特任准教授、宇都宮大学、University of Leedsの研究グループは、植物は、根から分泌される二次代謝産物ストリゴラクトンによって、隣接する植物の存在を感知し、自身の生長を制御している可能性を示すことに成功したと発表した。植物は地下の部分でコミュニケーションし、隣接する植物の存在を感知すると競合しないように、環境にうまく適応しようとしているという。[\(https://www.ehime-u.ac.jp/data_relese/pr_20220809_agr/\)](https://www.ehime-u.ac.jp/data_relese/pr_20220809_agr/)

陸上の生物の総重量は470ギガトンで、そのほとんどは植物で、人間・すべての動物・微生物の重さを合わせても、たった4.5%に過ぎないそうだ。人間も動物や微生物も、植物なしには到底生きていけないのだ。

いずれにしても植物学の研究者たちが近年めざましい成果を上げ、謎の多い植物の世界を次々に解き明かしてくれて頼もしい。

植物がじっとしているだけではないのはわかった。だがしかし“植物がおしゃべりをしている”とまで言い切ってしまうのはどうだろう。(埜村 太郎)

図書館を離れて (第58回)

— 時代小説の中のお仕事女子⑥ —

並木 せつ子

江戸時代の職業婦人の中から師匠、医者、職人を選んで時代小説をとりあげてきたが、「お仕事」の種類はまだまだ数多ある。例えば、死んだ人の体をきれいに洗い清める仕事＝『出世花』（高田郁著）のお縁、尼寺東慶寺の用心棒＝『縁切寺お助け帖』（田牧大和著）の茜、水戸黄門の曾孫・梅白を弟子に持つ将棋指し＝『将棋士お香事件帖』（沖田正午著）のお香など実に多彩だ。『薫と芽衣の事件帖』（倉本由布著）や『かぎ縄おりん』（金子成人著）のように「岡っ引き女子」までいる。岡っ引きはもともと罪人に申しつけた仕事で正義の味方ではないばかりか、立場を利用してゆすり・たかりをする者までいたという（『与力・同心・目明しの生活』／雄山閣／1966年）。どちらかと言えば嫌われ者の多い仕事だった。薫と芽衣は15歳、おりんは18歳、しかも芽衣は同心の娘で、薫の下っ引きというから驚く。

こんな具合であれば切りはないのだが、もう一つだけとりあげたい仕事がある。それは商人——振り売りや小店の商いではなく手代や番頭がいるようないわゆる大店の主（経営者）だ。商家の一人娘に婿を迎え当主に据える話はいくらでもあるが、女主人公が自ら当主として采配を振る例は少ない。それもそのはず、享保15（1730）年には大坂で「女名前の禁止」を命じた町触れが出されたくらいなのだ。以降、当主が亡くなって後家のままで商売を続けたくとも女名義の家を持つことも借りることも出来なくなったという（『江戸の女ばなし』河出書房新社／1993年）。

女衆から御寮さんに

その大坂を舞台にした女性の一代記が『あきない世傳 金と銀』全13巻である。2016年から6年半の歳月をかけて完結した。著者は『みをつくし料理帖』の高田郁である。

主人公の幸は、摂津の津門村（現西宮市）に生まれた。寺子屋の師匠である父、母、兄、妹と

もに暮らしていたが、享保の大飢饉の年（1732年）に兄が急死、翌年父も流行り病で亡くなると、9歳の幸は大坂へ女中奉公に出されることに。奉公先は天満にある呉服店の五十鈴屋。店主は代々徳兵衛を名乗り、今の店主が四代目。三代目が3人の息子を残して早逝したため、幼くして後を継いだ長男だったが、放蕩三昧で店主の務めをはたさない困り者だった。店は「お家さん」と呼ばれる祖母（二代目の妻）の富久や、番頭の治兵衛が取り仕切っていた。

幸はこの五十鈴屋おなごしゅの女衆として雇われたのだ。学ぶことの好きだった幸だが、<一生鍋の底を磨いて過ごす>のが女衆だと言われ、丁稚や手代のように夜の勉強時間に参加することは許されなかった。ただ学びたい一心の幸は部屋の外から聞き耳をたてたり、治兵衛や富久の教えに耳を傾けたりと、奥向きの仕事をしながら熱心に商売のあれこれを学んでいった。

さて、放蕩三昧の四代目は豪商の娘を嫁に迎えたが、3年経たずして離縁ということに。子どもができないことも理由だったが、要するに豪商の娘に愛想をつかされたのだ。そして14歳になった幸が後妻になるよう勧められる。幸の聡さや商才に気づいた富久や治兵衛の計らいだった。行く当てのない幸に否も応もなく、「御寮さん」と呼ばれる立場になった。四代目は幸と一緒にあった後も変わらず放蕩者だったが突然の事故で亡くなる。

五代目を継いだのはその弟で、次男の惣次だった。このとき幸は17歳、続けて五代目の御寮さんになった。仕事熱心な惣次は幸とも協力し商売は順調だったが、仕事に関して非情な面を持つ惣次、二人は互いに齟齬をきたすようになる。幸の商才が誰の目にも明らかになると、誇り高い惣次は突然隠居を宣言し行方不明になってしまった。去り状も届いたが、幸はもとの女衆に戻ってでも、五十鈴屋の商売に関わっていたかった。

五十鈴屋の跡目をどうするか、富久や治兵衛は知恵をしぼり、結果として三男の智蔵が六代目を継ぐことになった。浮世草子を書くため五十鈴屋を離れていた末弟を呼び戻したのである。智蔵は9年も家を離れ商売に関心も無かったが、自分とは何の才もない、木偶の坊でくだから、幸に六代目の女房となって<思う存分、商いの知恵を絞って>もらいたいと言う。<五代目の女房ごと跡目を継ぐ>という異例の事態に呉服仲間の面々は仰天するが、ようよう説得し、21歳の幸は六代目と連れ添うことになった。二人が一緒になったのを見届けると富久は「五十鈴屋を百年続く店に」という言葉を残し、幸に店の将来を託して亡くなる。

智蔵は幸の考えを尊重してくれた。いつか江戸にも店を出そうと夢を語りあいながら二人は商いを大きくしてゆくが、5年後、智蔵は病で急逝する。跡目をどうするか。大坂には「女名前禁止」という掟がある。幸はかつて船場で3年だけ女名前が許された例があるというのを聞き、自分が天満で初めての例になろうと決意する。<三年あれば……商いの上で色々な手を打てる。三年後、誰に継がせるか、熟考もできるだろう>。

こうして幸は<中継ぎ>という名目で五十鈴屋の七代目となった。3年といっても足掛けだから、実質1年半ほどしかない。江戸には「女名前禁止」の掟は無いという——、幸は早速、江戸店を出す準備のため2人の奉公人を江戸に派遣した。幸は26歳になっていた。

この先、幸は五十鈴屋で17年間培ってきた商売の知識や人脈、もともとから備わっていた聡さや決断力を武器に、商才をさらに発揮してゆく。そうした幸の持ち味こそ、この物語のおもしろさなのだが、ここまで（おもしろくもない）四代目から六代目の妻になった経緯を縷々書いてきたのは、江戸時代、幸にそっくりな人生を送った女性が実在していたのを知ったからである。次々と当主である3兄弟の妻になり、その後自分も当主になるなんて…、小説ならではのこと、現実にあるはずないと思いつつ読んでいた所だった。

『伊藤家伝』

近世の女性や職業について調べているとき、偶然みつけたのが「伊藤屋の宇多」である。享保18（1733）年、伊勢に生まれ、名古屋の呉服店伊藤屋に嫁いだが、七代目、八代目、九代目と3人の夫に先立たれ、十代目には自らがなった。後に再婚して夫に家督を譲ると江戸に進出、上野の松坂屋を買収した人だという。この宇多についてもう少し知りたいと調べているうちに『伊藤家伝』（岡戸武平著／中部経済新聞社／1957年）という資料にたどりついた。

それによれば、伊藤家の祖は織田信長に仕える伊藤蘭丸（祐広）という武士で、その子祐道の代に武士の身分を離れた。城下町として発展しつつある名古屋で、太物から始めた商売を代々広げていったが、大きく変えたのは五代目の裕寿すけひさだった。それまで呉服や小間物の問屋だったのを、大衆に直結した小売業に転じたのである。そして“現金売り”を取り入れ店を一段と大きくしていった。50歳を過ぎると長男祐圭すけかどに六代目を譲り自らは隠居するが、病弱だった祐圭は25歳で亡くなる。そこで祐寿は五男の祐潜すけかきを七代目の当主に決め、伊勢桑名から嫁を迎える。その嫁が15歳の喜代（後の宇多）だった。祐寿がほっとしたのも束の間、祐潜も病で亡くなる。八代目には、店を離れ桑名で医の修業中だった、四男の祐清すけきよを呼び戻して当主とし、七代目の妻だった喜代を添わせた。このとき喜代は17歳。

祐寿は息子たちに先立たれ、隠居として安住できなかったが、八代目が決まった2年後に<こんどこそ…達者で>と願いつつ他界した。にもかかわらず4年後、八代目祐清まで他界。これで祐寿の実子はいなくなった。そこで親族の佐藤喜兵衛を喜代の夫として迎え、九代目当主すけまさとした。しかし3年後に祐正も若くして亡くなる。<不運な喜代は、伊藤家に興入れしてから、十一年の間（※）に三人の夫を失ったわけである>。<伊藤家にとっての一大危機>に番頭をはじめ周囲が尽力し、十代目にはとりあえず後家の喜代がなることに。このとき喜代23歳、名を「宇多」と改めた。

<宇多の今日までの精神的に耐えてきた苦難と負
けず嫌いの性格が、ここに円熟練達されて女主人
ながらも立派な支配者>となり、<伊藤家の名を
いよいよ高からしめた>のだ。まだ若い宇多に再
婚をすすめる人があると<伊藤家のためになるこ
となら>と同意し、親戚筋から十一代目の当主と
して祐恵を迎えた（※宇多の年齢など数の合わない所
もあるが原書のままとした）。

祐恵は健康に恵まれ商才にもたけていた。宇多
は祐恵の良い相談相手となり、店はくいよいよ充
実拡張の一步をたどった。二人は江戸で店を持
とうと話し合い、使用人を江戸に派遣した。みつ
けたのは売りに出ている下谷広小路の松坂屋で、
宝永4（1707）年に伊勢白子の太田利兵衛が江戸
に開いた呉服店だった。居抜きで――手持ちの品
も使用人もそのまま引き取ってほしい、という条
件である（これは『あきない世傳』も同じ設定）。
二人はここを買い取って「松坂屋という呉服店」
とした。その先には幸と同じように、火災や幕府
の儉約令など数々の困難が待ち受けているが、越
後屋、大丸屋、白木屋などとともに生き残り、後
の松坂屋百貨店にまでつながったのである。

幸と宇多そして殊法

このように幸と宇多の人生は重なる部分が多い。
その理由がわかったのは2022年8月、最終巻が出
てからだった。「あとがき」に<本作を手がけるきつ
かけとなったのは、「いとう呉服店」(のちの松坂屋)
十代目店主の宇多という女性でした。困難に屈せ
ず、商いを守り育てていく女性を描きたい、と願
い、新たに創り上げたのが、本作の主人公、幸で
す>と書かれていた。「そうだったんだ」「やっぱり」
と大納得である。

『伊藤家伝』によれば、江戸に出てからの商売は
祐恵が中心になるが、『あきない世傳…』では、江
戸でも幸が大活躍する。武士用だった小紋を庶民の
ものにしたたり、外でも着られる浴衣を考えたり。も
ちろん困難にも会う。妹の結に裏切られたり、絹物
が扱えなくなったり…。それでも幸はずっと、お客
も売り手も喜ぶ商売「買うての幸い、売っての幸せ」

を掲げて、<のちの世に伝えられるような、商いの
橋を架け>るため、まだ見ぬ世界へと踏み出して行
く。幸の9歳から40代半ばまで、時代は享保から
明和の頃（1730年頃から1770年頃）の物語。

商家で采配をふるったのは宇多だけでない。越
後屋の祖・三井高利の母である殊法（殊宝）も
また家業を一手に引き受けた人だ。殊法は慶長7
（1602）年、13歳で伊勢の松坂に住む高利の父・
高俊に嫁いだが、夫の高俊は遊芸の趣味に走って、
商売には身を入れず44歳で亡くなった。30代で
後家になった殊法は実家が伊勢の丹羽（にう）の
豪家。代々商人の家系だったので商才はあったの
だろう。もともと殊法が担っていた家業でもある。
なりふり構わず働いて商売を盛り立てた。<明る
く働きもので、しかも日常のすべてに無駄がない。
貧しくても足らぬのは工夫が足らぬと積極的な態
度で切り盛りしていく>人だったという（前出『江
戸の女ばなし』）。また<先頭に立って客に対応す
る……経営の才があり、数字に強かった……儉約
するだけでなくアイデア・ウーマン……公正な人
柄>などと語り継がれている（『史料にみる日本女
性のあゆみ』吉川弘文館／2000年）。4男4女を
育て、4人の男子は10代半ばになると江戸などに
下し自立させた。その中の4男が高利で、江戸に
呉服店越後屋を開き初代となった。母の殊法は「三
井家商いの元祖」とも呼ばれている。

店主を「女名前」にするのは難しかったため、
未成年の長男や養子を名義人にしてはいるが、母
や伯母であるお家さんやご寮さんが実権を握って
いることも多かったようだ。宇多や殊法のような
人は他にもいたにちがいない。

商売をする「お仕事女子」小説の中で、究極の
変わり種は『あきんど姫様』（若月ヒカル著）だろう。
二条院桜子は公家のお姫さんだが、父は亡くなり、
家は借金だらけ。跡継ぎの兄も、お金に頓着しな
い母も全く頼りにならぬ。桜子は写本や色紙を書
いて報酬を得ているが借金は増えるばかり。そこ
で兄や母に内緒で一気にお金を稼ぐ決意をする。
寺子屋の師匠、漬物の製造販売、果ては屋敷を賭

場として貸し出すなど、“公家離れ”した奮闘振り。なぜなら借金が返せないと桜子は島原へ身を売らねばならないからだ。これこそ実際にはありえないと断言したいのだが、“事実は小説より……”だから“もしかすると”と思わぬでもない。

お仕事女子の出てくる時代小説はまだまだいっぱいあって、とても紹介しきれものではない。面白い本ばかりとは言えないが、一つの観点から選んで読んだからこそその面白さはあったように思う。作者が何に重点を置いているか、どんな女性（男性）観を持っているか。また作

者ごとの文体の違いや話の構成の特徴、（一概には言えないが）女性作家と男性作家の違いなど、諸々感じとれるものがあつた。フィクションの世界とはいえ、江戸時代の人びとに少しだけ触れられたような気もする。（なみき せつこ）

【このシリーズの主な参考資料】

『絵が語る知らなかった江戸のくらし 庶民の巻』『江戸の仕事図鑑 上・下巻』『時代小説職業事典：大江戸職業往来』『絵で見る江戸の女子図鑑』『女性のいる近世』『江戸時代の女性たち』『江戸の暮らし図鑑 女性たちの日常』『江戸よ語れ』『日本医療史』『全集日本の食文化 第7巻』

DMがたろく

ESTRELA ■2023年1月号
No.346/1月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

【特集】空間情報技術と安全・安心な社会

- オープンソースGISによる通学路安全点検活動の支援
 - 一 学校安全への空間情報技術の「実装」の試み一
 - 原田 豊(立正大学データサイエンス学部教授)
- 空間スケールに着目した犯罪発生と環境要因に関する空間分析
 - 上杉 昌也(福岡工業大学社会環境学部准教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル 5階
TEL : 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>

Think Asia
NO.50 2023 winter-spring

福沢諭吉とアジア 第四回(最終回)

1890年代のアジア情勢に関して…… 嵯峨隆
糖葫蘆(タンフル)…… 西井和弥
パンダ来日50周年…… 家永真幸
ジェームス・カーティス・ヘボン…… 伴武澄
アジアのチャイナタウンを巡る 第七回
タイ、バンコクのチャイナタウン…… 山下清海
うさぎ…… 丁美堂

一般財団法人 霞山会(文化事業部)
〒107-0052 東京都港区赤坂2-17-47
電話:03-5575-6301 / FAX:03-5575-6306
<https://www.kazankai.org/>

ビジュアル大図鑑 中国の歴史

圧倒的ビジュアルで探る!

紹介動画はコチラ



「中国の歴史」決定版!

DK社 編
定価:6930円(税込) 978-4-487-81441-1
東京書籍
〒114-8524 東京都北区堀船2-17-1
TEL.03-5390-7531 FAX.03-5390-7538
<https://www.tokyo-shoseki.co.jp>

横道誠編

問題 2 世 宗 教 みんなの

鈴木エイト 斎藤環 江川紹子 沼田和也 中田考 釈徹宗 信田さよ子 島菌進

私たち2世の声を聞いてください!

虐待、金銭的搾取、家庭崩壊、性暴力、PTSD…。当事者たちの証言と識者たちの考察で、問題の解決に挑む。1980円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

トランスジェンダー問題

議論は正義のために ◎2200円
 ショーン・フェイ 著 高井ゆと里 訳 清水晶子 解説

オックスフォード 哲学者奇行

児玉聡 著 ◎2420円

ダイエットはやめた

私らしさを守るための決意 ◎1650円
 バク・イスル 著 梁善実 訳

14歳からのSDGs

あなたが創る未来の地球 ◎2200円
 水野谷優 編著 岡井修、井本直歩子、
 林佐和美、加藤正寛、高木超 著

明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5
 TEL 03-5818-1171 FAX 03-5818-1174 (税込)

キリスト教書総目録

2023 A5判 / 238頁 / 頒価本体 286円

- 【巻頭エッセイ】藤原淳賀氏 / 高橋沙奈美氏
- 2023年1月までに刊行予定のもの収める
 - 総記・年鑑、辞(事)典、図説・年表 / 全集(著作集)、叢書・講座 / 聖書 / 聖書学 / 神学 / 宗教哲学、思想・倫理 / 伝記(ノンフィクション)・歴史 / 信仰・入門書、人生論、説教集 / 文学(小説、評論・エッセイ、詩、劇) / 音楽、美術、建築 / 教育・保育、心理、社会福祉 / 児童、絵本 / 讃美歌、式文 / DVD、CD、点字 / キリスト教関係雑誌、新聞の15部門に分類
 - 書店様にてご注文ください

一般財団法人キリスト教文書センター

TEL 03-3260-6520 URL <http://christbook.jp>

アマルティア・セン / 東郷えりか 訳

アマルティア・セン回顧録

上巻
インドでの経験と経済学への目覚め
 下巻
イギリスへ、そして経済学の革新へ

原点となる少年時代から珠玉のエピソードを交えて語る。各2970円

松田晋哉

ネットワーク化が 医療危機を救う

検証・新型コロナウイルス感染症対応の国際比較 3850円



勁草書房 TEL 03-3814-6861 *価格税込
 FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

子どもから大人が 生まれるとき

森口佑介 [著] ●予価1760円(税込) ISBN 978-4-535-56419-0

子どもは大人とは異なる存在、
 いわば“宇宙人”である——。
 その独自の認知特性や道徳観、
 思考様式を、発達科学の視点で読み解く。

●3月中旬刊

行動経済学

室岡健志 [著] ●予価2750円(税込) ISBN 978-4-535-54054-5

伝統的な経済学の拡張・発展としての行動経済学。その理論と応用、
 実証、実験を最新研究も含めて体系的にまとめた決定版!

●3月中旬刊



日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
 ☎ 03-3987-8621 <https://www.nipponyosha.jp>

新テキスト・シリーズ y-knot これからのメディア論

大久保 遼 著

身近なメディア経験から出発し、
 広大な領域の探索へ。メディア
 の仕組みと歴史を知ること、
 感受性と解像度を高め、これか
 らのメディアを使いこなすため
 のヒントを見つける。

壮大なスケールの社会構造
 の変容を、気鋭の研究者が一
 貫した視点で描き出す。

y-knot 四六判 定価2,530円(税込) 特設サイト公開中!



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
<http://www.yuhikaku.co.jp/>



手話の入門を終えた人のための
 学習書。基本をおさらいし、手
 話ならではのCL表現などを、詳
 しい解説と練習問題で身につけ
 ます。

A5判 / 118頁 / 2色刷
 定価 2,200円(税込)

前川和美
 下谷奈津子
 平 英司 [著]

しくみが身につく手話 ②初級編 [DVD付き]

白水社

101-0052 東京都千代田区神田小川町3-24
www.hakusuisha.co.jp/ tel.03-3291-7811

